

**令和5年(2023年)7月1日～3日に  
九州北部地方、九州南部・奄美地方で  
線状降水帯が発生した事例**

---

令和5年7月 気象庁大気海洋部

# 気象の概況、線状降水帯に関する情報の発表状況

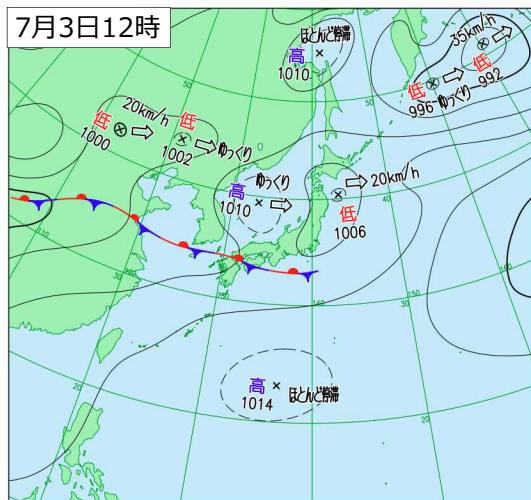
## 【気象の概況】

・梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、7月1日～3日にかけて九州北部地方及び九州南部・奄美地方で大雨となり、線状降水帯が発生した。

## 【線状降水帯に関する情報の発表状況】

- ・6月30日午前中から7月1日午前中の気象情報にて、九州北部地方、九州南部・奄美地方を対象に30日午後から7月1日日中にかけて、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを実施した。
- ・7月1日に山口県西部、中部、北部を対象に「顕著な大雨に関する気象情報」を発表した。
- ・7月2日に鹿児島県奄美地方を対象に「顕著な大雨に関する気象情報」を発表した。
- ・7月3日午前中から4日午前中の気象情報にて、九州南部・奄美地方を対象に3日午後から4日午前中にかけて、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを実施した。
- ・7月3日に熊本県熊本地方、阿蘇地方を対象に「顕著な大雨に関する気象情報」を発表した。

## ○ 線状降水帯に関する情報の発表状況



### 顕著な大雨に関する気象情報の発表基準

現在、10分先、20分先、30分先のいずれかにおいて、以下の基準をすべて満たす場合に発表

- ① 前3時間積算降水量（5kmメッシュ）が100mm以上の分布域の面積が500km<sup>2</sup>以上
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）において土砂災害警戒情報の基準を超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキル（洪水警報の危険度分布）において警報基準を大きく超過した基準を超過

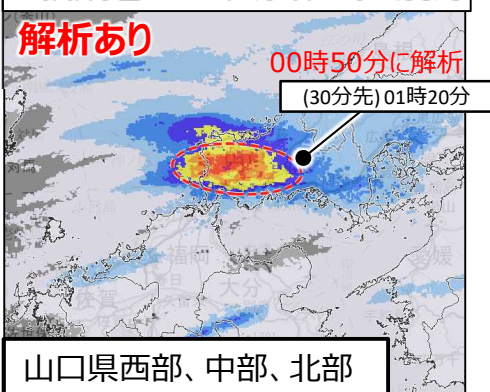
地方	半日程度前からの呼びかけ※	顕著な大雨に関する気象情報
九州北部	6月30日10時00分	7月1日01時00分（山口県西部、中部、北部）
	なし	7月3日06時29分 （熊本県熊本地方、阿蘇地方）
		7月3日13時30分（熊本県熊本地方）
九州南部・奄美	6月30日10時16分	なし
	なし	7月2日01時09分（鹿児島県奄美地方）
	7月3日10時30分	なし

※ 一連の現象で複数回呼びかけた場合は、最初の呼びかけ時間のみ掲載。

# 線状降水帯の解析状況

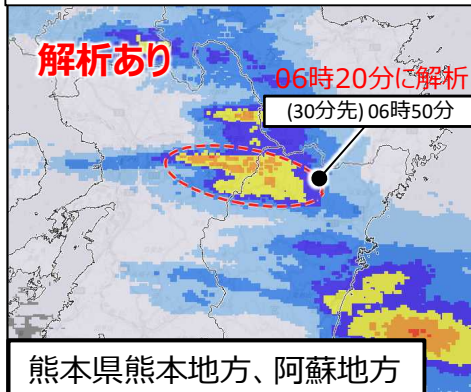
## 九州北部地方での事例

3時間降水量 2023年7月1日00時50分まで



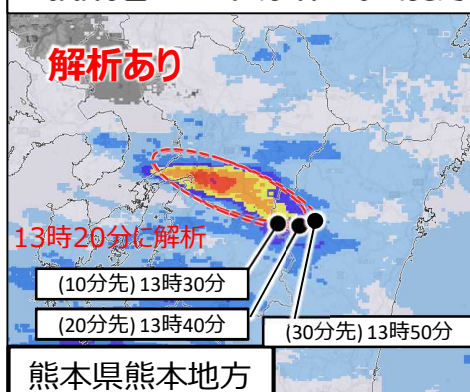
線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値は**約160ミリ**

3時間降水量 2023年7月3日06時20分まで



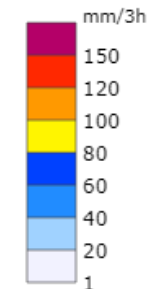
線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値は**約200ミリ**

3時間降水量 2023年7月3日13時20分まで



線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値は**約160ミリ**

3時間降水量

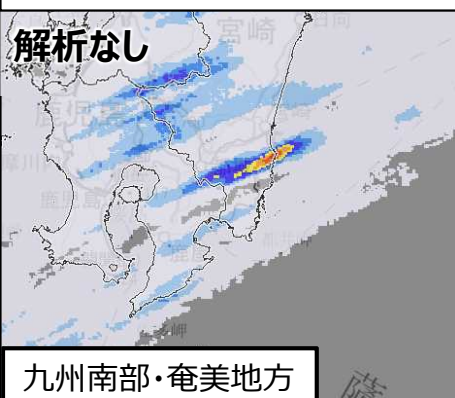


大雨災害発生の危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域 (現在時刻の解析)

大雨災害発生の危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域 (10~30分先の解析)

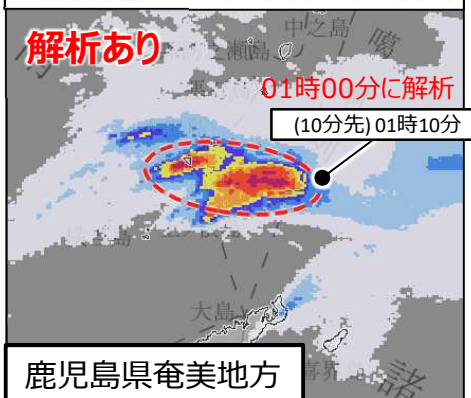
## 九州南部・奄美地方での事例

3時間降水量 2023年7月1日05時50分まで



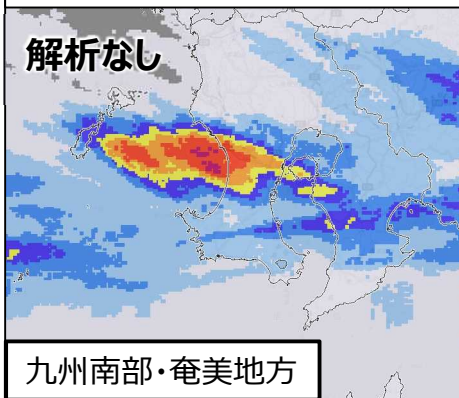
九州南部・奄美地方における3時間降水量の最大値は**約130ミリ**

3時間降水量 2023年7月2日01時00分まで



線状降水帯の雨域における3時間降水量の最大値は**約250ミリ**

3時間降水量 2023年7月3日18時00分まで



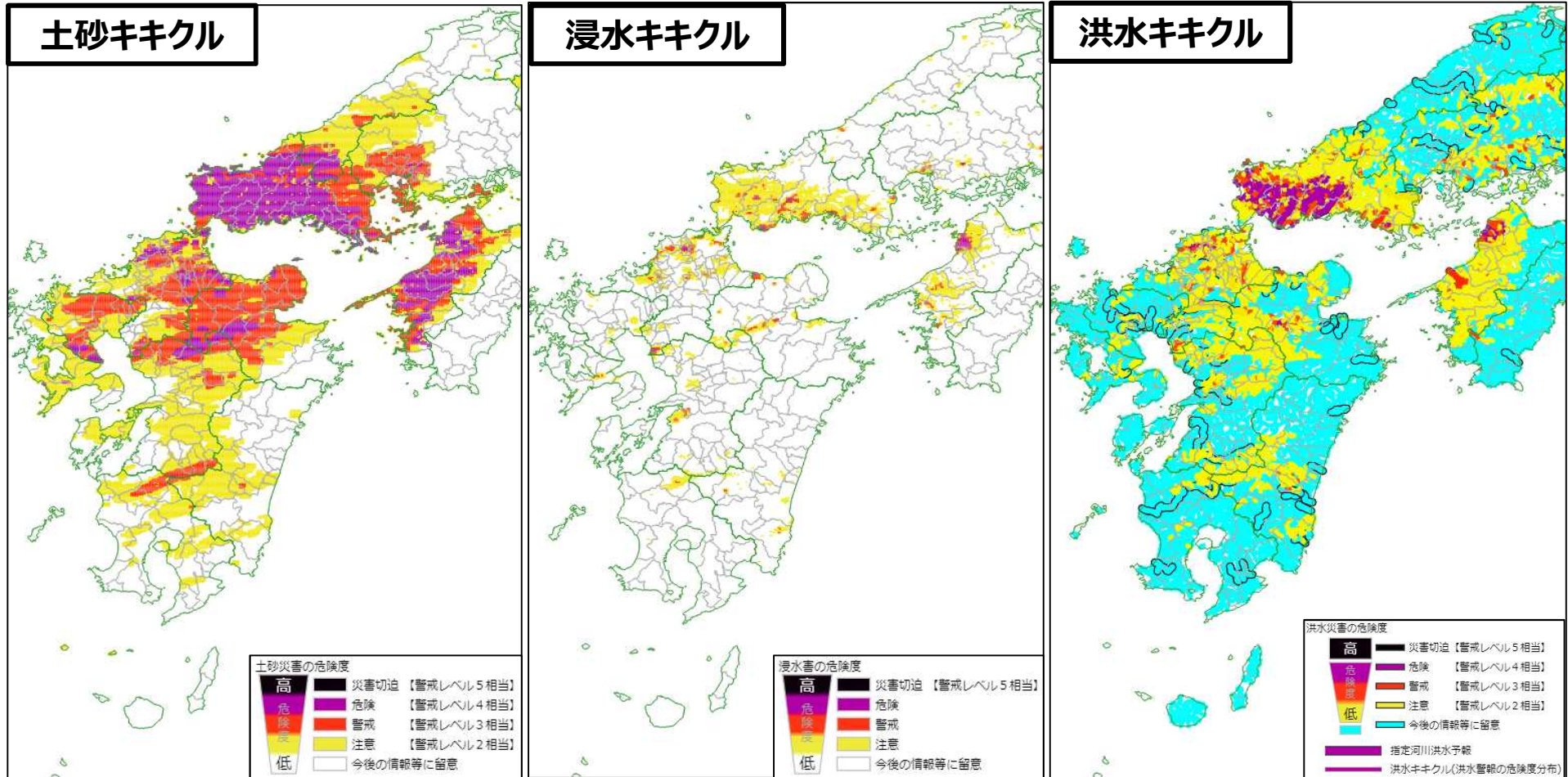
九州南部・奄美地方における3時間降水量の最大値は**約170ミリ**

※ 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを実施したものの、「顕著な大雨に関する気象情報」を発表しなかった地方については「解析なし」とし、期間中最も雨量が多かった時間帯の雨量の状況を表示している。



# (参考) キキクル (危険度分布) の状況

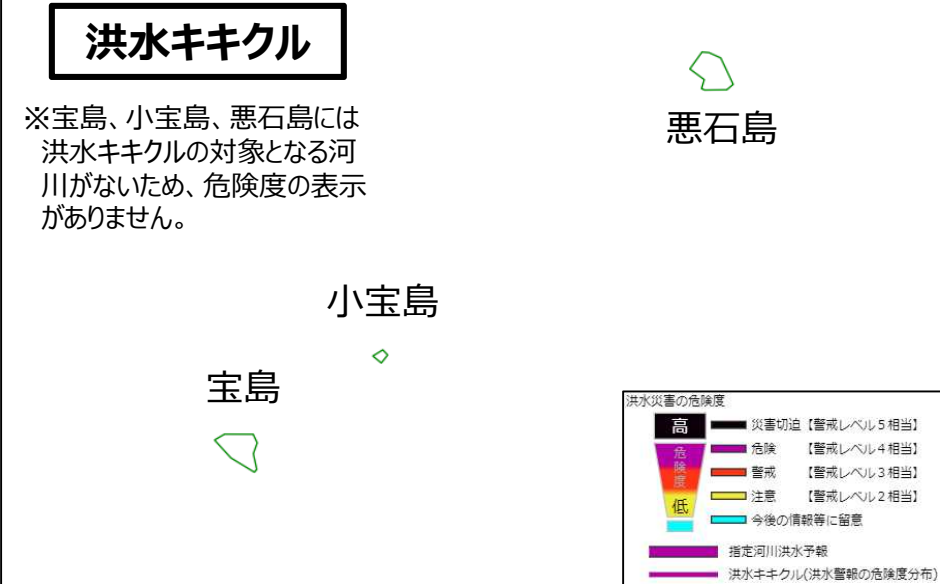
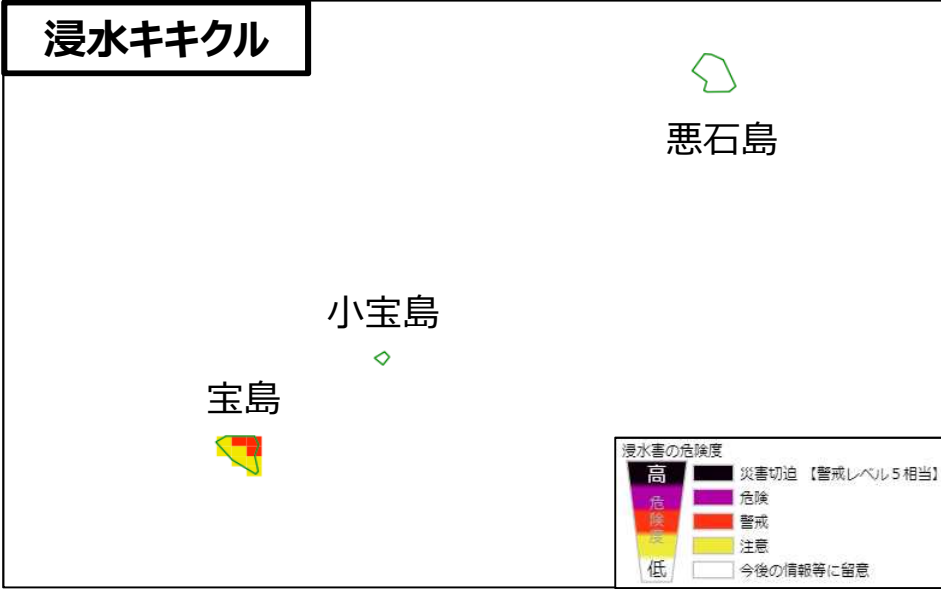
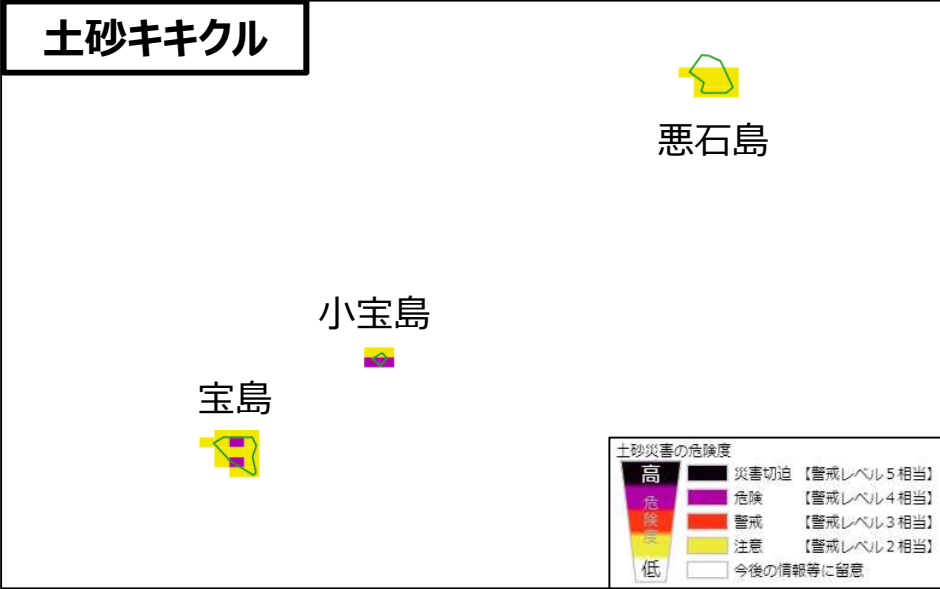
7月1日：九州北部地方、中国地方、四国地方では、土砂キキクルにおいて「危険」(紫)が広がった。



6月30日12時から7月1日12時にかけて出現した最大の危険度

# (参考) キキクル (危険度分布) の状況

7月2日：奄美地方では、土砂キキクルにおいて「危険」(紫)が出現した。

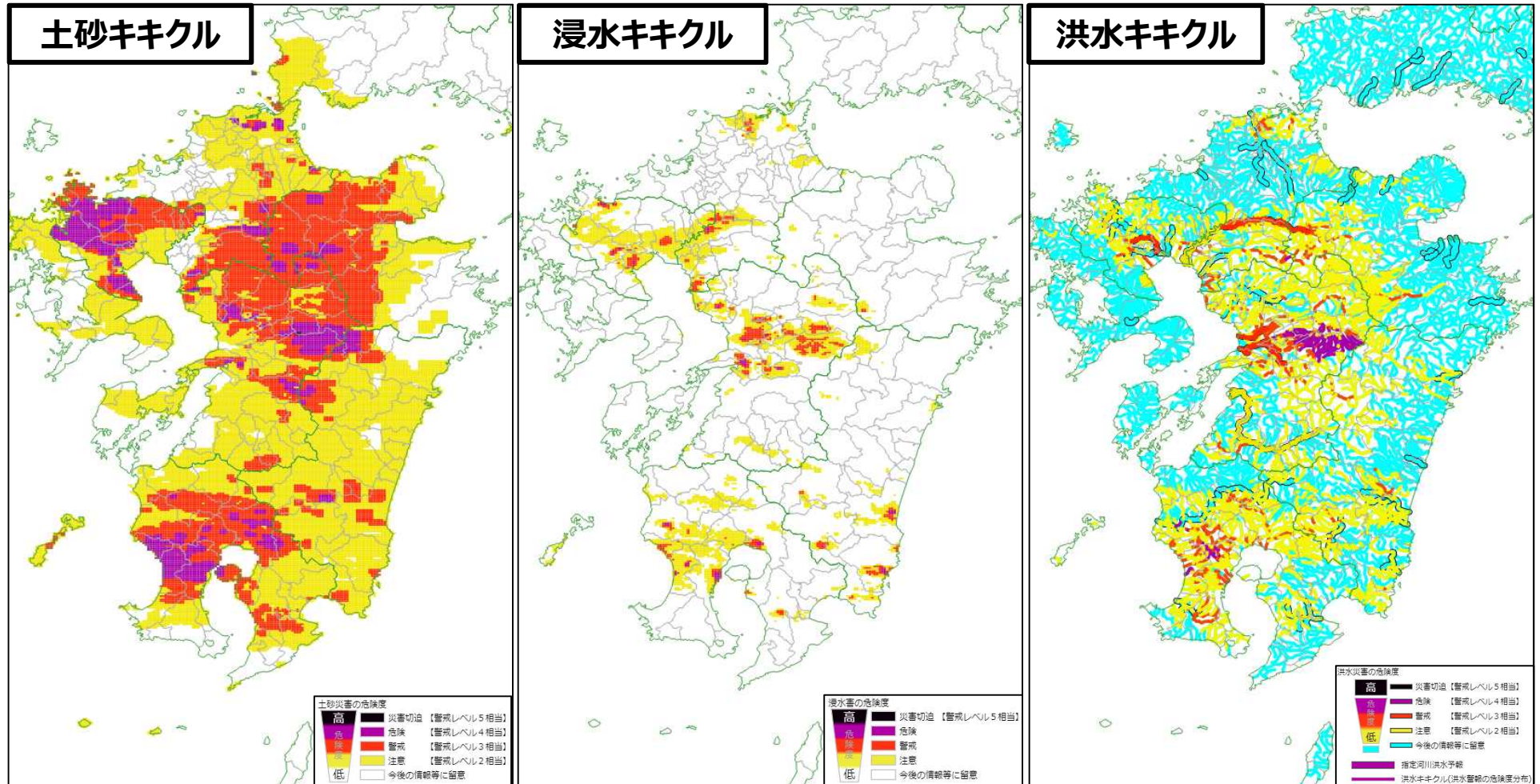


7月1日15時から2日15時にかけて出現した最大の危険度



# (参考) キキクル (危険度分布) の状況

7月3日：九州北部地方、九州南部・奄美地方では、土砂キキクル・洪水キキクルにおいて「危険」(紫)が広がり、「災害切迫」(黒)も出現した。



7月3日0時から4日0時にかけて出現した最大の危険度

# 本資料について

- 本資料は、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを実施した事例、又は線状降水帯が発生した事例※について速報的にまとめた資料です。  
※「線状降水帯が発生した事例」とは、前出の「顕著な大雨に関する気象情報の発表基準」を満たした場合をいいます。
- 本検証資料は「大雨事例等における防災気象情報の精度検証と発表基準の改善」のページからアクセスできます。  
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jirei/index.html>
- 関連する情報は、「線状降水帯に関する各種情報」のページをご覧ください。  
[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/kishojoho\\_senjokousuitai.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/kishojoho_senjokousuitai.html)
- 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを、地方予報区単位で実施していることから、検証も地方予報区単位で実施し、同じ地方予報区でも時間がある程度あいた場合等は異なる事例として取り扱っています。ただし、ここに掲載する検証資料は、地方予報区をまたいで線状降水帯が発生した場合等に1つにまとめていることがあります。

現在の技術では、線状降水帯による大雨の正確な予測は難しく、呼びかけを実施しても必ずしも線状降水帯が発生するわけではありませんが、線状降水帯が発生しなくても大雨となる可能性は高いため、この情報が発表されたときには心構えを一段高めてください。

また、線状降水帯による大雨の呼びかけがなくても、線状降水帯が発生したり、災害をもたらすような大雨となったりすることがあるため、自治体が発令する避難情報や、大雨警報やキキクル等の段階的に発表される防災気象情報とあわせてご活用ください。